

令和五年度

高等学校入学者選抜学力検査問題

国語

注意事項

- 一 問題は、一ページから七ページまであります。
- 二 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。

— 次の文章には、校内の俳句大会で優勝したユミが、同級生で俳句を作る仲間である、ハセオとソラを、春休みに学校で待っているときのこと
が書かれている。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(14点)

校長先生から聞かされた、ハセオの話を、ユミは思い出していた。

春休み前、^⑧豪華景品を受け取りに行ったときのことだ。

なんのことはない、校長先生が学生時代に出した詩集を、自費出版で立派な装丁の本にしたものだった。タイトルは、『青春はがんもどき』。

気持ちはいれしいけど、こういうのをもらって、喜ぶ子はいるんだろうか……。でも、「造本に凝って、時間がかかってしまったよ、ほら^②このフランス装がきれいでしょう？」とうれしそうな校長先生を前にして、不満げな顔を見せるわけには、いかなかった。

それよりも、ユミにとって重要だったのは、^③「ヒマワリ句会のハセオくんなんだけどね。」と前置きをして始まった話のほうだった。

「俳句大会の開会宣言のあとで、私に直談判を求めてきたんだ。」

校長室に、いきなりやってきたハセオは、言いたいことがあるという。

校長先生の発言を取り消してほしい、と。俳句は伝統文化。そう言った

先生の言葉が、どうしても許せないのだという。伝統文化と言ったとた

んに、祠の中の神様みたいになるのが、自分はいやだ。俳句は確かに

昔からあるけれど、いまの自分の気持ちや、体験を盛るための器とし

て、自分は俳句をやっている。校長先生の発言は、いま、この詩^④とし

て、俳句を作っている自分たちを、ないがしろにするものだ。

「彼の言葉が、ぐさつとむねに突き刺さってね。」

俳句とはなにか、詩とはなにか。生徒から問われた気がしたのだとい

う。「あの生徒も、やはり、わが校の誇りだよ。」

校長先生は、私も考えがあつて言ったことなので、発言の取り消しは
しないが、あなたから与えられた「宿題」として、あなたの卒業の日ま

でに、考えておくと返したそう。ハセオは、それでいちおう、満足し
た様子だったという。

校長先生に自分が「宿題」を出したというのが、うれしかったのかも、
などとユミは思う。あいつは、いつも宿題に苦しめられていたから。

「この本を出そうと思ったのも、彼の言葉がきっかけだったんだ。——とこ
ろで、俳句大会に彼が出した句を、君は知ってる？」

ユミは頭を振る。本人に聞いても、適当にはぐらかされたまま、いま
に至っていた。

校長先生は少し考えてから、「君は彼と同じ句会の仲間、つまり句友
だしね。俳句大会の優勝者でもある。感想を聞いてみたい。彼には、私
が伝えたことは、内緒にしておいてくれよ。」と断ってから、「こんな句
なんだ。」と、一枚の短冊を渡した。俳句大会の投稿用紙として、使われ
たものだ。短冊の裏に、クラスと名前を書く欄があるから、それを手掛
かりにボックスの中の大量の投句の中から、ハセオの句を探し出したの
だろう。ユミにとっては、記名欄を確認する必要はなかった。まぎれも
なく、ハセオのくせの強い字で、

雪がふるそらのことばを受け止める

と書いてある。

「その句はね、大会では、三点しか入っていなかったんだ。でも、私は
いい句だと思う。あなたはどうかかな？」

ユミは、その短冊の字を、何度も目で追った。追うだけではなくて、

思わず一度、口に出してもみた。まちがいない。それは、ユミが、自分
のサクラシールを貼った句だった。

ヒマワリ句会に出るようになって、たくさんの言葉とめぐりあった。

誰かの言葉にも、そして自分の中に潜んでいた言葉にも。今まで聞いた
ことのない言葉もあった。なじみのある言葉であっても、それががらりと
違って見えたこともあった。

言葉は、とても 。形がなくて、すぐに消えてしまふ。まさに、

雪のように。でも、その言葉を受け止めて、一歩踏み出すことができたのも、ゆるがない事実だ。この学校に、自分と同じように言葉に助けられた人がいたことがうれしくて、最終的にこの句を選んだのだった。やっぱり、ふざけなければ、いい句も書けるじゃないか。もしいまここに、ハセオがいたなら、その背中をばーん！ と叩いてやるところだ。「てのひらに降ってくる雪。それを、『そのことば』と言いかえてみせたのは、あつと驚くマジックじゃないかい？ ふつうは『空の言葉』と書くところ、ひらがなにしているのはきつと、そのことで、雪のつぶのやわらかさを表現したかったんだと、私は思う。」校長先生は、ユミの感想も待たないで、少し興奮した口調で、鑑賞の弁を述べた。

たしかに、その通りだ。でも、ハセオの句と知ったいま、ユミは隠された意図をそこに読み取っていた。これは挨拶なんだ。ハセオから、ソラへの。「そら」には、かけがえのない友人の名前を、掛けてあるのだ。

(高柳克弘『そのことばが降ってくる 保健室の俳句会』による。)

(注) ① 表紙、カバーなどの体裁を整えること。 ② 製本の仕方の一つ。

③ 俳句を作り批評し合う会の校内での名称。ユミ、ハセオ、ソラだけが所属している。

④ 軽んじること。 ⑤ 投稿された俳句のこと。

⑥ ここでは、俳句大会で好きな句に貼る、生徒に配られたシールのこと。

問一 二重傍線(〓)部④、⑤の漢字に読みがなをつけ、⑥のひらがなを漢字に直しなさい。

問二 次のア～エの中から、波線(〰)部と同じ構成の熟語の一つを選び、記号で答えなさい。

ア 軽重 イ 読書 ウ 花束 エ 日没

問三 本文には、校長先生が考えておくことにした「宿題」の内容が分かる一文がある。その一文の最初の五字を抜き出しなさい。

問四 傍線(――)部の句に、ユミが「サクラシール」を貼ることに決めたのはなぜか。その理由を、俳句大会でユミが、傍線(――)部の句を見て気付いたことが分かるように、三十文字程度で書きなさい。

問五 次のア～エの中から、本文中の の中に補う言葉として、最も適切なもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア 頼りない イ 大人げない ウ 新しい エ 力強い

問六 ユミは、俳句大会のハセオの句に、かけがえのない友人への挨拶が隠されていることを読み取っている。ユミは、ハセオが俳句大会の句に、かけがえのない友人への挨拶を、どのように隠したと読み取っているか。ハセオが俳句を作る目的を含めて、五十字程度で書きなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(14点)

わたしたちにとって何よりも重要なことは、自分以外の人びととどのように関係しながら生きるかということです。自分以外の人びとは、生まれたときから頼りあつてくらししている身近な人はもちろん、まだ会ったこともない地球上のさまざまな人びともあります。

そうした人びとのかかわりの平面はしかし、わたしたちにとってごく限られています。地球上で起こっているさまざまな出来事について、わたしたちは多くの場合、新聞やテレビの報道で知り^アます。まるでかんきやくのようにしてそれにふれます。その人たちの運命と自分のそれとはあまりに遠く隔たつていて、それらが自分の毎日の生活とどうつながっているのかは、相当な知識と想像力がなければ理解できません。他方、毎日の生活のなかで絶対^{注①}なおざりにできないのは、同僚や友だち、あるいは家族との関係です。ここでは相手の一言一言に深く傷ついたり、落ち込んだり、逆に強く励まされたりしています。

ここから抜け落ちてい^イるのは、よく「中間世界」と呼ばれているものです。自治体の市民としての生活、地域住民としての生活です。いいかえると、ふだんの生活の具体的な文脈となつてい^イる世界であり、ともに社会を動かす主体でありながらたがい^イに未知であるような人たちとのかわりです。それこそ政治や経済が具体的に働きだしている世界です。ところがそのような世界の仕組みは、さまざまな要因が複雑に絡ま^カつていて、容易に見通せるものではありません、むしろわたしたちの現実^カはわからないものばかりで編まれていると言つてもいいほどです。

少し具体的にお話ししましょう。

政治、それは外交をとつて

も国内行政をとつても、不確定な要素に満ちています。政治は、状況が刻々と変わるなかで、きちんとした見通しもつかないまま、しかも即決なんらかの決定をしなければなら^ウない、そんな判断が求め^エられる世界です。すぐにも実行しなければなら^エない施策が二つ、A、Bとあつても、Aを先にやるかBを先にやるかによつて、A Bそれぞれの施策の意味も実効性も大きく変わつてしま^エいます。そんな不確定な状況のなかでい^エだを置かずともろもろの決定をしなければなら^エないのが、政治的な判断というものです。

次に、場面を変えて、介護や看護といったケアのいとなみについて考えてみましょう。ケアの現場では、ケアを受ける当事者とその家族、さらにはケアに携わる人や介護スタッフ、医師や施設の管理運営を預かる者というふう^オに、それぞれの立場で判断はときに微妙に、ときに大きく異なり^オます。そういう対立した思いが錯綜するなかで、いいかえると、だれの思いを通して^{注②}もだれかに割り切れなさが残るという現場のなかで、それでもこの場合に何がいちばんいいケアなのかを考え、ケアの方針を立てねばなりません。ここでは、正解のないところでそれでも一つの解を選び取る、そういう思考が求められます。

さらに場面を変えて、芸術制作の現場を考えてみます。制作者は自分が何を表現したいのか、自分でもよくわかつていません。はじめは、表現しなければなら^{注③}ないという衝動だけがあるだけです。けれどもできあがつた作品は、美術の場合ならここにはこの線、この色、音楽の場合ならここにはこの音、この和音しかありえないといった、必然性が隔々まで行き渡つています。ここでは、曖昧な事を割り切るのではなく、曖昧な感情を曖昧なまま正確に表現することが求められているわけです。

このように不確定なこと、わからないことが充満する世界、正解のない世界のなかで重要なことは、すぐにはわからない問題を手持ちのわかっている図式や枠に当てはめてわかった気にならないことです。わかっていることよりもわかっていないことをきちんと知ること、わからないけれどこれは大事ということを知ることが重要なのです。そしてそのうえで、わからないものにわからないまま的確に対応する術を磨いてゆかなければなりません。

(驚田清一『岐路の前にいる君たちに 驚田清一式辞集』による。)

(注) ① 軽んじること。 ② 複雑に入りくむこと。

③ 心の中にわきおこる強い欲求。

問一 二重傍線(=)部⑥、⑦のひらがなを漢字に直し、⑧の漢字に読みがなをつけなさい。

問二 波線(〰)部ア～オの動詞の中には、活用の種類が一つだけ他と異なるものがある。それはどれか。記号で答えなさい。

問三 本文で述べられている、報道で知る世界の出来事と日常生活とのつながりを理解するために不可欠なものを、本文中から十字以内で抜き出しなさい。

問四 次のア～エの中から、本文中の□の中に補う言葉として、最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ たとえば ウ むしろ エ したがって

問五 筆者は本文において、傍線(――)部のような世界における重要なことについて述べている。そのうえでさらに、どのようなことが必要であると述べているか。傍線(――)部のような世界の仕組みが、見抜きづらい理由を含めて、五十字程度で書きなさい。

問六 次のア～エの中から、本文で述べている内容として適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身近な人たちだけでなく、まだ会ったこともない人たちともどのようにかわって生きるかが重要である。

イ 外交や国内行政を行う政治の世界では、確定していない状況の中でも素早い判断が求められる。

ウ 介護などのケアの現場では、それぞれの立場によってケアに対する思いが食い違うことがある。

エ 芸術の世界では、曖昧なまま表現された作品が意外性にあふれたものとなる。

三 次の文章は、陸上部の部長が、体育館にいる新入生全員の前で、部活動紹介をするためにまとめている原稿である。あなたは、陸上部の部長から原稿についての助言を頼まれた。この原稿を読んで、あとの問いに答えなさい。(9点)

こんにちは。陸上部です。陸上部は、短距離種目を専門とする部員と長距離種目を専門とする部員、合わせて二十人で活動しています。陸上競技は、個人で取り組むことが多いので、孤独な競技と思う人もいるのではないのでしょうか。しかし、わたしたち陸上部は、「切磋琢磨^{せつさくさくま}」という、部員の活動する姿勢を表す合言葉¹を共有することで、一つのチームとして結束しています。活動日は、毎週火曜、木曜、土曜日の三日間で、顧問の山田先生に教えてもらいながら練習しています。あさつてには、見学会を学校のグラウンド西側で実施する予定です。では、練習内容を紹介します。まず全員でウォーミングアップを行います。全員で体幹を鍛えるトレーニングも行った後、種目ごとに分かれま²す。短距離では、スタートダッシュを強化する練習などを行います。大会前にはリレーのバトンパスの練習も行います。長距離の部員は、男子五人、女子三人です。長距離では全力走とジョギングを繰り返す練習などを行います。練習の最後に、再び全員で集まり、ストレッチやミーティングを行います。

どの部活動に入るか、悩んでいる人もいます。ぜひ、合言葉の表す陸上部員の活動する姿勢を感じ取ってから、入部する部活動を考えてみてください。新入生の皆さん、一緒に青春の一ページを刻みましょう。

なお、あさつて行う見学会は、持ち物や着替えの必要はありません。グラウンド西側に集合してください。

問一 傍線部1を聞き手である新入生に伝えるときに、注意すべきことを確認したい。次のア～エの中から、注意すべきこととして、適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 印象づけるように、言葉に強弱をつけて話す。

イ 理解できるように、意味によるまとまりで区切って話す。

ウ 冷静に伝えるために、原稿に目線を落として話す。

エ 聞き取りやすくするために、はっきりとした発音で話す。

問二 傍線部2の中の「もらい」を、「山田先生」に対する敬意を表す表現にしたい。「もらい」を敬意を表す表現に言い換え、傍線部2を書き直しなさい。

問三 本文中の、第二段落において、練習内容をより簡潔に伝えるために、練習内容ではない、ある一文を削除したい。その一文の、最初の五字を抜き出しなさい。

問四 あなたはこの原稿を読んで、新入生が見学会に参加するために必要な情報が不足していると気付いた。新入生が見学会に参加するために必要な情報として、付け加えるべき内容とはどのようなことか。簡単に書きなさい。

問五 次の の中のメモは、「切磋琢磨」の意味をまとめたものである。あなたは、傍線部3の意味が新入生には伝わりづらいと考え、メモの内容をふまえた表現に書き直したほうがよいと部長に提案した。メモの内容をふまえ、陸上部員の活動する姿勢が新入生に分かりやすく伝わるような表現を考えて、傍線部3を書き直しなさい。

- ① 石や玉などを切り磨くように、道徳・学問に励むこと。

② 志を同じくする仲間と互いに競い合い、励まし合って向上すること。

(『広辞苑』などによる。)

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(7点)

注①よりよし 注②あふみのくに
頼義の郎等に、近江国の住人、日置の九郎といふものあり。馬、

家来

注③

もののぐの出たち奇麗なり。頼義見て気色を損じ、いまいましき有様な

いであきれい
よそおいさらびやかだ

機嫌を悪くし

感心しない

り、汝、かならず身を亡ぼすべし、はやく売りはらふべし、それも味方

なんぢ
命を落とすだらう

売り払ってしまいなさい

の陣には売るべからず、敵方へ売るべし。九郎かしこまつて、後日のいくさ

ウ
売ってはならない

恐縮して

に、また先におとらぬ奇麗をつくしたるものぐを着たり。着替の料な

以前

代品

りといふ。頼義、なほ身を失ふ相なり、売りはらふべし、かまへて着す

やはり命を落とす格好である

絶対に

べからずと。次の日には、黒革緘の古きを着たり。頼義、これこそ

くろかわをし
黒色のよろいで古いもの

めでたしめでたしと仰せあり。奇麗にたからをつひやせば、家まづしく

喜ばしく結構である

お言葉

着飾る

金銭

なりて、よき郎等を扶持すべきちからなし、されば、敵にむかひて亡び

召し抱えることができる

それゆえ

相対して

やすしと、仰せありしなり。

(注) ① 源頼義。平安時代の武将。

② 昔の国名。今の滋賀県。

③ よろいなどの武具。

(志賀忍・原義胤『三省録』による。)

問一 二重傍線(〓)部を、現代かなづかいで書きなさい。

問二 波線(~~~~)部ア、エの中で、その主語に当たるものが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 傍線(――)部は、九郎のよそおいの変化に対する、頼義の感想である。頼義が、傍線(――)部のような感想を述べたのは、九郎のよそおいが、どのようなものから、どのようなものに変化したからか。その変化を、現代語で簡単に書きなさい。

問四 頼義が、九郎に対して、命を落とすことになるという内容の発言をしたのは、頼義にどのような考えがあったからか。頼義の考えを、現代語で書きなさい。

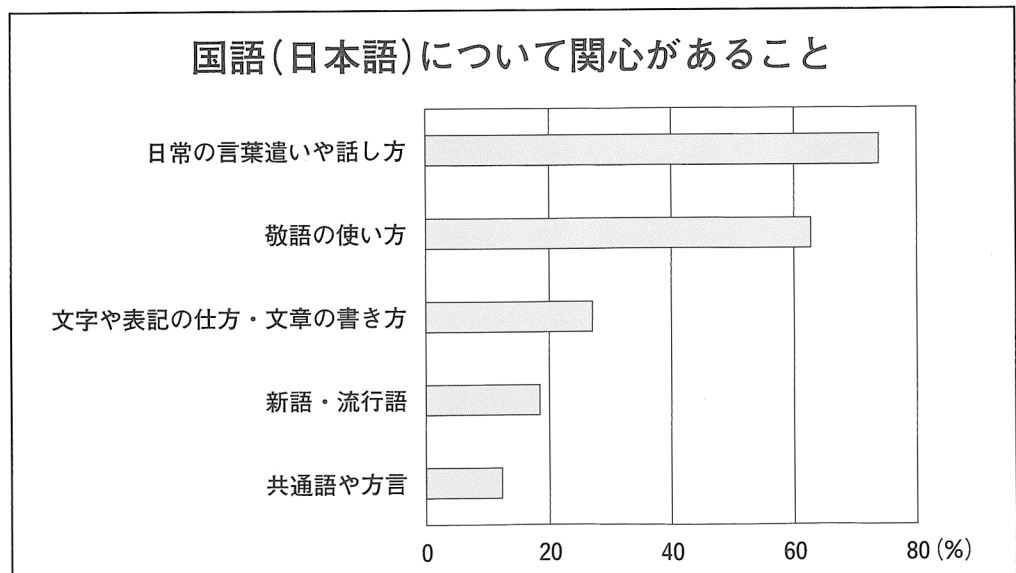
五

下のグラフは、日本語に関する意識や理解の現状について調査した「国語に関する世論調査」のうち、「国語（日本語）について関心があること」について調査した結果を表したものである。

あなたは、このグラフから、どのようなことを考えるか。あなたが考えたことを、あなたが体験したことや学んだことなど、身近なところにある事柄と関連付けて書きなさい。ただし、次の条件1、2にしたがうこと。（6点）

条件1 一マス目から書き始め、段落は設けないこと。

条件2 字数は、百五十文字以上、百八十文字以内とすること。



注1 文化庁「平成30年度 国語に関する世論調査」により、調査項目の中から一部の項目を取り上げて作成（複数回答可）

注2 調査対象は、「国語について関心がある」と答えた、16歳以上の男女、約1,500人